

はったん 八反遺跡第3次発掘調査説明資料

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 平成25年10月5日

調査要項

遺跡名 八反遺跡(県番号 723)
所在地 山形県東根市大字長瀬字八反
時代・種別 中世:集落跡
起因事業 東北中央道(東根~尾花沢間)
調査依頼者 国土交通省山形河川国道事務所
調査機関 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査 平成25年5月22日から11月1日まで
調査面積 3,800m²
調査担当者 主任調査研究員 高桑登(現場責任者)
調査研究員 長谷部寛 尾形知哉

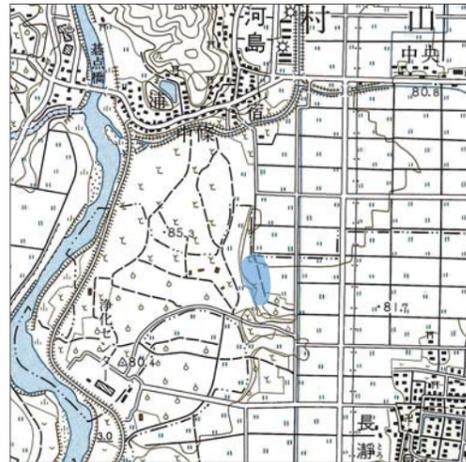


図1 遺跡位置図(1/50,000)

調査成果(10月5日現在)

検出遺構 集石遺構 土坑 柱穴 溝 古銭埋納遺構
出土遺物 中世陶磁器 石製品 金属製品 古銭



図2 調査区概要図(1/2,000)



写真1 B区2面全景(北から)

1 調査の概要

八反遺跡は最上川右岸の自然堤防上に位置しています。現在は果樹園や畑が広がり、周辺の水田より一段高くなっています。遺跡の周辺には、最上川の旧河道の痕跡が低地や水田として残されており、一帯が最上川の氾濫原だったことがわかります。

八反遺跡は長い期間存続した遺跡で、時代ごとに層をなして遺構や遺物が見つかります。これまでの調査で、第1面は中世後期の墓地、第2面は古墳時代~中世前期の集落、第3面は縄文時代の集落であることがわかっています。

第1次調査ではA区1面、第2次調査ではA区2・3面、B区1面、第3次調査でB区2面、C区1・2面の調査を実施しました。

2 見つかった遺構と遺物

昨年度の調査では、A区2面の南半部に古墳時代から平安時代の竪穴建物、北半部に中世前期の溝や柱穴群が分布することが確認されていました。今年度の調査で溝や柱穴群が、北側のB区2面まで分布していることが確認できました。遺跡の立地する自然堤防上で、川に近く周囲より小高い場所に、古墳時代から平安時代の集落が展開し、中世前期になると、北側のやや低い土地に集落が移動していることがわかってきました。

溝は南北及び東西に何条も掘られており、溝の内側に柱穴や井戸が集中しています。集落の区画や排水のために掘られたものと考えられます。

B区の中央部では南北約10m、東西約20mの範囲を囲む不定形の溝が見つかりました。この溝の内側には整地の痕跡が認められ、中世陶器を一括

廃棄した土坑(写真4)や牡丹文の古瀬戸壺(写真7)などがみつかりました。集落の中でも特殊な空間であった可能性があります。この北側からは、約10,000枚の古銭が入った曲物が出土しました(写真2・3)。

溝や土坑、井戸からは、中国産の陶磁器や古瀬戸、珠洲、在産の瓷器系陶器など13~14世紀を中心とした中世の遺物が出土しています(写真7)。壺、甕、擂鉢といった生活用具の他、茶入や合子、硯など、一般の集落からはあまり出土しない特殊な遺物が多いことが特徴です。

3 まとめ

八反遺跡の北半部には、溝に区画された中世前半の集落が展開していることがわかってきました。不定形の溝に囲まれた施設や、一括出土銭、特殊な遺物の存在などから、宗教的な性格の強い集落であった可能性があります。集落の全面を洪水によると考えられる礫層が覆っていることから、この集落は洪水によって廃絶し、その後、この一帯は葬送の場へとその性格を変えたと考えられます。



写真2 一括出土銭



写真3 一括出土銭出土状況

一括出土銭について

古銭は直径30cm、高さ15cmの曲物に納められ、曲物より一回り大きな穴に埋められていました。穴の上半部は地山とよく似た土が堆積しています。周囲には柱穴が密集していますが、建物等があったかは現在のところ不明です。

曲物は折敷で蓋をされていたため、当時の銭の流通、保管の単位であった緡の状態が極めてよく保存されていました。緡は約100枚の銭を藁紐等でまとめたものです。最上部に見えている範囲で16本の緡銭が確認できます。曲物の高さから、約10,000枚の銭が入っていると推定されます。

銭の種類は未確認ですが、ほとんどが中国銭と考えられます。年代は周辺の遺構や遺物から鎌倉～室町時代と考えられます。

今後銭を取り上げ、詳細な年代や埋納方法等の調査を行う予定です。

| 陶磁器 | 金属・木製品 | 農水産品・他 |
|------------------|--------------------|-------------------|
| 0.5文・油环・1422年 | | 0.08・梅干し・1489 |
| かわらけ | | 0.2・梅干し・1491 |
| かわらけ(基準1文) | | 0.5・醬(1コン)・1492 |
| 3・ほうろく・1569 | 4・金剛1足・1480 | 0.7・茄子・1491 |
| 柴付皿・1548 | 12・金剛1足・1477 | 1.2・牛蒡(1把)・1489 |
| 15・土鍋・1246* | 20・鎌・1568 | 1.6・大根(1把)・1491 |
| 白磁甕皿・1548 | 25・鎌・1560 | 2.3・蓮葉(1把)・1489 |
| 35・摺鉢・1423 | 25・上金剛・1422 | 6・小たい・1492 |
| 35・甕皿・1576 | 30・たらい・1439 | 14・海老(1コン)・1492 |
| | | 25・ハマチ・1491 |
| | | 25・うなぎ・1401* |
| | | 36・蟹・1492 |
| 50・四方火鉢・1488 | 50・金輪・* | |
| | 54・丹波苴・1492 | 50・栗缶掛け・1590 |
| | 60・茶鍋・1568 | 60・櫛作り日当・1574 |
| | 70・金輪・* | |
| | 75・酒鍋・1575 | |
| | 85・金輪・1468 | 85・いも(1斗)・1491 |
| | 85・鉄・1567 | |
| 100・火鉢・1453 | 100・草履・1550 | 100・大工日当・1490 |
| 100・火鉢・1462 | 100・鉄鍋・* | 110・大工日当・1470 |
| 110・火鉢・1446 | | |
| | 120・三升鍋・1572 | |
| | 130・硯箱・1469 | |
| | 130・金輪・1439 | |
| | 150・鍋・1439 | |
| | 150・鍋・1564 | |
| | 150・樽・1477 | |
| | 180・つき臼・1480 | |
| 250・大甕・1372* | 250・小釜・1487 | 350・小釜掛け・1590 |
| | | 618・年地子3×9間・1558* |
| | 1100・美濃袖(1反)・1492 | |
| | 1300・釜(口1尺2寸)・1487 | |
| | 2000・茶の湯釜・1582 | |
| 7000・建蓋(3個)・1493 | | |
| 8000・建蓋・1492 | | |

戦国時代の物価比較(奈良・京都)*は地方(小野正敏1997『戦国城下町の考古学』講談社)



写真4 土坑の底面付近から、壺、甕、摺鉢の破片がまとめて出土しました。

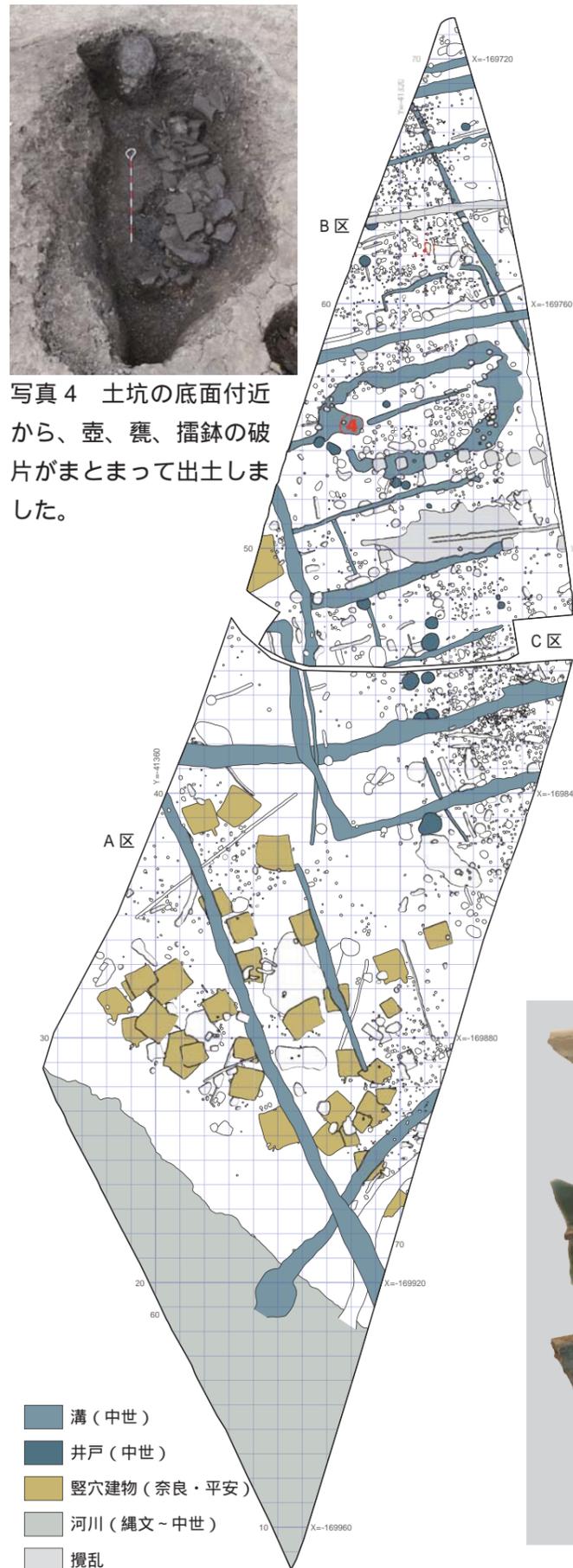


写真5 左写真の土坑から出土した遺物の一部です。越前、珠洲、在地産の瓷器系陶器などが出土しています。



写真6 溝のコーナー部分から五輪塔の火輪が出土しました。

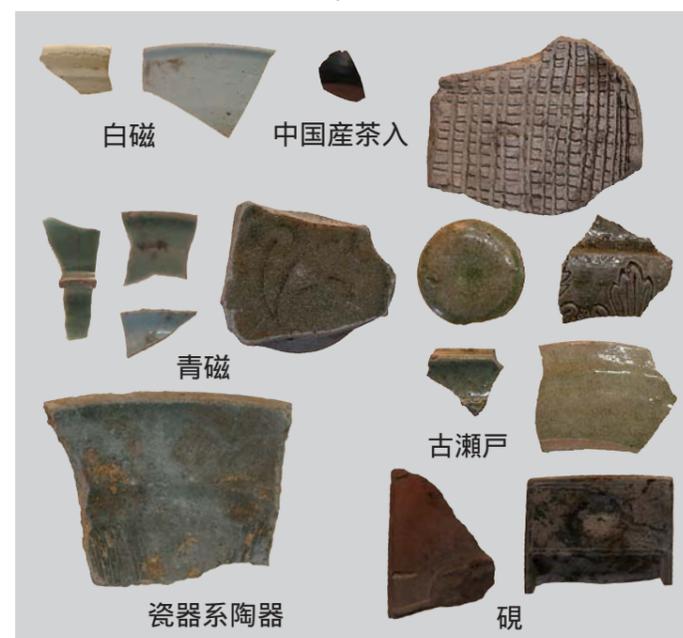


写真7 出土した遺物

図中の赤丸数字は写真番号と対応しています。遺構の場所、遺物の出土地点を示しています。